

鈴鹿10座の保全・活用プラン数値目標及び実施計画の評価

具体的取組	令和3年度 数値目標 (定性目標):A	実施計画達成状況			数値目標達成状況		5年間の評価	
		令和3年度・計画:B	令和3年度・実績:C	達成率:C/B	累積(R3):D	進捗率:D/A		
(1) 登山口までのアクセスの改善	公共交通機関との連携によるアクセスの改善	-	(1)アクセス改善の検討 (2)アクセスニーズの把握	(1)登山口までのアクセス改善について、タクシー利用や駅から登山口間の送迎をセットとしたツアー実施の可能性について、旅行事業者や観光事業者と協議した。 (2)鈴鹿10座ビジターセンターにおいて、アクセス改善等の相談を受けた。(電車やバスでのアクセスについての問合せもあり、比較的高齢者からの問合せであった。)	-	-	-	【実績】 ・登山口までのアクセスの改善について公共交通機関の利用について関係機関と協議 ・駅から登山口までの送迎をセットとしたツアーの企画 ・登山者から聞き取り調査を実施 ・タクシーによる配送サービスを利用したモデルコースの確認 ・道の駅から銚子ヶ岳登山口までの自動運転バスサービスの運行開始 【評価】 ◎登山口までのアクセス改善について、関係機関などと協議を進めてきたが、登山者に配慮した運行まで至らなかった。 ◎道の駅奥永源寺渓流の里をベースに登山口までの多様なアクセスの検討を行った結果、自転車活用などの可能性は見いだしたが、普及に当たっては道の駅周辺への駐車場の確保が課題である。 ◎駅から登山口までの送迎をセットとした登山ツアーは、一定の需要が見込めるため、引き続きバス事業者等と連携した企画が必要である。 ◎自動運転サービスによる登山口付近までの運行について、駐車場不足を解消するため、引き続き連携した活用・PRが必要である。
	エコツーリズムやイベントの開催時における積極的な公共交通機関の利用	-	イベントにおける公共交通機関利用の促進	・各種団体に対して、ツアーやイベント実施における公共交通機関の利用検討を啓発した。 ・旅行事業者と鈴鹿10座エコツアーガイドクラブが共同で、駅から登山口間の送迎をセットにした登山ツアー企画(八日市駅-御在所登山口)を実施した。(コロナにより参加者数が少なかったため中止)	-	-	-	
	道の駅をベースに多様な交通手段を活用したアクセスの導入	(道の駅をベースにした交通アクセスの導入)	関係機関との協議	・道の駅奥永源寺渓流の里を拠点とした自動運転バスサービスの運行を開始した。 ・自動運転バスサービスでは、銚子ヶ岳登山口を経由地として早朝の時間帯のダイヤも設定した。 ・道の駅奥永源寺渓流の里から石樽峠まで自転車による試走を実施した。	-	電動アシスト自転車実証実験 自動運転バス実証実験 自動運転バスサービス 自転車による試走	-	
(2) 登山道、標識、駐車場、トイレなどの施設整備	登山道の整備	(1)推奨コース設定:30路線 (2)登山道整備:20路線	(1)「推奨コース」の公表 (2)登山道整備:3路線のうち、新規1路線	(1)推奨コースを市HPで公表 (2)登山道整備:計3路線 【年次計画路線】 ・路線⑥石樽峠から竜ヶ岳までのコース 踏圧や浸食によりガリー化が進んでいるため、近自然工法により、自然に近い形で雨水を誘導するなど整備した。 ・路線⑩天狗堂から御池林道(岩合谷)に下山するコース 滑落などの事故が発生しているため、ロープを設置するなど整備した。 【年次計画以外】 ・路線②T字尾根からテーブルランドに向かうコース 登山道の倒木など処理した。 ・路線③如来堂から日本コバ、路線④政所から日本コバに向かうコース 登山道整備イベント(延期)	(2)100%	(1)14路線 (2)24路線	(1)47% (2)120%	【実績】 ・推奨コース14路線公表 ・登山道整備 24路線 ・標識設置 61基 ・トレイル構想の策定、現地踏査 ・駐車場整備 4箇所 ・トイレ整備 2箇所 【評価】 ◎登山道、駐車場及びトイレの整備などが進み鈴鹿10座への入山者数は年々増加傾向にある。 ◎登山道は、24路線の整備を進め、推奨コースを14路線公表することができた。 ◎登山口までが未舗装林道等でアクセスが困難ところもあり、推奨コースの設定が難しい登山道もある。 ◎近自然工法による登山道整備箇所については継続的にモニタリングし、工法の有用性について評価するとともに、長期的に登山道を維持保全できるよう登山道整備のスキルアップを図る必要がある。 ◎駐車場等を整備した鈴鹿10座では登山者が増えているため、登山道整備を強化する必要がある。 ◎道迷いによる遭難が発生しやすい箇所には、重点的に標識整備を整備を行う必要がある。また、初級登山者の増加に対応するため、わかりやすいルート表示を行う必要がある。 ◎トレイル構想については、推奨コースの整備を優先的に行ったため、具体的な取組には至っていない。近年、登山者が増えていることから、他のトレイルの状況も注視し、情報収集を行う必要がある。 ◎年々登山者が増加しているため、駐車場及びトイレ整備は地権者や地元等関係機関と協議し、継続して検討する必要がある。 ◎休憩場等の整備については、登山道、駐車場、トイレ等の整備を優先して実施しているため、整備に至っていない。引き続き検討を行う必要がある。
	標識の整備	標識設置:100基	標識設置:20基	①標識設置4基 ・山頂標識1基(雨乞岳) 山頂を示す標識が破損しているため、鈴鹿国定公園の設置基準に沿った標識を設置 ・登山口標識1基(宮坂峠) 天狗堂宮坂峠コースは、令和2年度に君ヶ畑町自治会と整備した箇所では標識が無いため設置 ・道迷い防止標識2基(宮坂峠、竜ヶ岳) 天狗堂宮坂峠コースは、踏み跡が少ないため道迷い防止のため設置 竜ヶ岳は令和3年度も道迷いの山岳遭難事案が発生していることから、東近江市山岳遭難対策協議会と連携し道迷い防止標識を設置 ②登山道の巡視の際に、簡易標識を設置(鈴鹿10座ガイドクラブに委託)	20%	61基	61%	
	トレイルの構想と実現に向けた整備	(トレイル構想の実現)	(1)トレイルの現地踏査 (2)トレイルの整備	(1)現地踏査(巡視)路線①③④⑥⑪⑬⑯ (2)登山道整備 路線⑥	-	-	-	
	登山拠点としての駐車場・トイレ等の整備	(1)登山拠点の設定:7箇所 (2)駐車場整備:7箇所 (3)トイレ整備:3箇所 (4)休憩場等整備:1箇所	(2)駐車場整備:1箇所	(2)駐車場整備:見送り 石樽峠付近の駐車場整備については、関係法令に沿った整備が困難なことから、関係機関との協議の結果、整備に至らなかった。 (3)トイレ整備 石樽峠での整備に向けて、地元自治会及び関係機関との協議を行った。(令和4年度整備予定)	(2)0%	(1)10箇所 (2)4箇所 (3)2箇所 (4)0箇所	(1)143% (2)57% (3)66% (4)0%	

具体的取組	令和3年度 数値目標 (定性目標):A	実施計画達成状況			数値目標達成状況		5年間の評価	
		令和3年度・計画:B	令和3年度・実績:C		達成率:C/B	累積(R3):D		進捗率:D/A
(3) 利用者への広報・情報提供	情報収集・提供の仕組み構築	(情報収集・提供の仕組み構築)	(1)情報収集・提供の仕組みの改善 (2)道の駅における情報コーナーの充実 (3)市職員相談業務(週5日) (4)ビジターセンター開館(通年)	(1)林道・登山道の危険情報や通行止め情報を市ホームページや鈴鹿10座ビジターセンターで提供した。展示会は新型コロナウイルス感染症の拡大により中止が多く、出店できなかった。 (2)(4)鈴鹿10座ビジターセンターを通年で開設したことにより季節に応じた情報提供や登山情報の収集を行った。 (3)相談業務 週6日	-	(1)展示会などへの出展 (2)(3)鈴鹿10座ビジターセンターにおいて、鈴鹿10座エコツアーガイドクラブによる相談体制を構築。また、鈴鹿10座ビジターセンターを通年で開館。 (3)市職員による相談体制を構築。	(鈴鹿10座ビジターセンターを開設し、鈴鹿10座エコツアーガイドクラブによる相談体制を構築した。)	【実績】 ・鈴鹿10座ビジターセンターの開設、拡充 ・相談窓口を通年で開設 ・展示会への出展 ・パンフレット:7種 ・プロモーションビデオ:16種 ・鈴鹿10座ガイドマップ:2種 ・鈴鹿10座関連グッズ:6種 ・入込状況調査:年3回実施 ・スマホの登山アプリと連携
	情報ツールの充実	(1)パンフレット:2種(詳細版、簡易版各1種) (2)プロモーションビデオの制作(10座) (3)登山マップ:1種 (4)ホームページ開設	情報ツールの充実	(1)パンフレット ⑦山岳雑誌「岳人11月号」 鈴鹿10座と鈴鹿10座ビジターセンターが紹介された。(掲載に当たり協力) (2)プロモーションビデオ ⑭感じよう「鈴鹿10座」 過去に制作した鈴鹿10座各座のプロモーションビデオの総集編として内容や写真などを更新した。ケーブルネットでの放映及びYoutubeへの動画投稿を行い、市内への周知だけでなくSNSを活用した幅広い広報を行った。 ⑮残したい東近江市の原風景「森里川湖ガイド編」 鈴鹿10座の紹介だけでなく鈴鹿10座をフィールドとしてガイド活動を行っている方の紹介や、ガイドから見た鈴鹿10座の素晴らしさなどを紹介し、映像を見た人が訪れたいような動画の作成を行った。 作成した動画は、鈴鹿10座ビジターセンターや新型コロナウイルスワクチン接種の待機室において放映し、鈴鹿10座の認知度向上に努めた。 ⑯「森里川湖」つながりフォトコンテストを実施 フォトコンテストに鈴鹿10座賞を設け、Instagramでの応募や受賞作品によるフォトコンテスト展示会の実施により広く鈴鹿10座の周知を行った。 (4)市は未開設(鈴鹿10座エコツアーガイドクラブがホームページ開設)	-	(1)パンフレット:7種類 ①登ろう!鈴鹿10座 ②鈴鹿10座ごとのチラシ(初版、改訂版) ③鈴鹿10座コースガイド(初版、改訂版) ④100年後に残したい鈴鹿の森17箇所選定 ⑤びわたび(県琵琶湖保全再生課) ⑥モンベル広報誌(OUTWORD) ⑦山岳雑誌(岳人) (2)プロモーション:16種 ①～⑩鈴鹿10座各座 ⑪100年後に残したい鈴鹿の森(政所、太尾、T字尾根) ⑬残したい東近江市の原風景「森」千草街道鉱山跡 ⑭感じよう「鈴鹿10座」 ⑮残したい東近江市の原風景「森里川湖ガイド編」 ⑯「森里川湖」つながりフォトコンテスト展示会 (3)登山マップ:2種 鈴鹿国定公園案内図(改訂版) 鈴鹿10座ガイドマップ (4)ホームページ:未開設	①350% ②160% ③200% ④0%	【評価】 ◎鈴鹿10座ビジターセンターを通年で開設し、登山者の相談窓口を設けることができた。通年で開設したことにより登山者以外の来館者の対応も行っており、鈴鹿10座だけでなく周辺観光の問い合わせも多くなっている。今後は、来館者のニーズへ対応するため相談者のスキルアップや増員などを含めさらなるビジターセンターの機能充実を進める必要がある。 ◎情報ツールの充実に関しては、目標数値を大幅に上回り製作を進め、鈴鹿10座の魅力発信を行うことができた。ホームページの開設については、現在のところ市ホームページを随時更新することにより対応しているが、独自のホームページの必要も含め、検討する必要がある。 ◎新たにYoutubeなどSNSを活用した広報を行ったが再生回数が伸びていないため、今後も市外に魅力が発信できる広報の方法を検討する必要がある。 ◎事業者等からヒアリングした結果、鈴鹿10座関連グッズ製作や商品の販売には、ロゴマークが存在する方が取り組みやすいとの意見もあったことから、引き続きロゴマークの活用の仕組みを検討する必要がある。 ◎駐車場整備及びトイレ整備を行った箇所では、登山者が増えているため、登山道整備を強化する必要がある。 ◎登山者のアンケートから登山届を提出されていない方が約3割であることや、地図やライトの不装備など安全登山のために必要な準備物を揃えていない登山者が多かったことから、引き続き鈴鹿10座ビジターセンターで安全な登山の準備などについて啓発に取り組む必要がある。 ◎登山アプリ運営会社との連携により、情報発信や登山状況の把握などの可能性が広がったが、十分に活用する必要がある。
	ロゴマークの作成、グッズの製作等	(1)ロゴマークの作成 (2)鈴鹿10座関連グッズ:5品	(1)ロゴマークの作成 (2)鈴鹿10座関連グッズ等の提供・販売等	(1)ロゴマークの作成 ロゴマークの作成について、検討したが作成には至らなかった。 (2)鈴鹿10座関連グッズ等の提供・販売等 鈴鹿10座登山道整備イベントボランティアの参加者に参加賞として配布する鈴鹿10座ロゴステッカーを製作した。	-	(1)ロゴマークの作成:未作成 (2)鈴鹿10座関連グッズ:6種類 登山記念バッジ 竜ヶ岳木製キーホルダー 鈴鹿10座エコバッグ 鈴鹿10座弁当 鈴鹿10座スタンプカード 鈴鹿10座ステッカー	①未作成 ②120%	
登山等の利用状況や利用者の声の把握と活用	-	(1)入込状況調査:年3回 (2)利用者の声等の把握 (3)新たな入込状況調査手法の検証(スマホアプリ等との連携)	(1)入込状況調査 3回(5月1回と11月2回)実施し、調査結果を鈴鹿10座エコツアーガイドクラブの活動や登山道整備等の検討に活用した。また、駐車場整備及びトイレ整備を行った箇所では、入込み客数が増加していることが確認された。 (2)利用者の声等の把握 鈴鹿10座ビジターセンターにおいて、登山者にアンケートと登山情報等のヒアリングを実施した。また、エコツアー時にアンケートを実施した。 (3)新たな入込状況調査手法の検証 スマホの登山アプリ運営会社と鈴鹿10座等の保全・活用による地域活性化に関する覚書を締結し、登山者の動向等を把握。	(1)100%	-	-		
(4) ガイド、安全対策、施設の維持管理のための体制構築 ①ガイドの養成と組織化	ガイドの養成	ガイド養成登録者:15人	ガイド養成講座(スキルアップ講座) 受講:延べ40名	・ガイド養成講座(スキルアップ講習) スキルアップ講座7日間実施し、延べ82名の受講があった。登山道の整備のスキルアップや鈴鹿山脈の植物、歴史・文化を学習し、ガイドスキルの資質向上を図った。また、先進地視察として登山ツアーを数多く実施しているNPO法人高島トレイルクラブのツアーに参加し、ガイド同士の意見交換を行った。 ・鈴鹿10座エコツアーリズムガイド1名が認定辞退により、認定を解除した。	受講数:205%	鈴鹿10座エコツアーリズムガイド 認定者数:21名	140%	【実績】 ・ガイド認定者数21名 ・ガイド組織の設立、運営 ・ガイドによる独自企画の実施 【評価】 ◎鈴鹿10座エコツアーリズムガイドの養成を通じて、認定者で組織する鈴鹿10座エコツアーガイドクラブが平成30年度に設立され、独自企画が実施されるようになった。 ◎ガイド認定者数は、目標値を上回る21名となった。 ◎エコツアーを充実するためには認定ガイドの増員やスキルアップを継続的に実施する必要がある。 ◎ガイド組織の資金面、運営面について、エコツアーリズム活動を通じた強化が図れると考える。 ◎鈴鹿10座エコツアーガイドクラブが実施するツアーの参加者数も増加していることから、引き続きツアー内容の検討や組織運営等の支援を行う必要がある。
	ガイドの組織化・運営の仕組みづくり	(ガイドの組織化・運営)	ガイド組織の運営	・ガイド組織の運営 鈴鹿10座エコツアーガイドクラブでは定例会を月1回実施し、鈴鹿10座の巡視やツアー実施等の情報共有を図られている。	-	巡視、整備、保全及び相談業務、エコツアーを実施	(ガイドの組織化・運営は達成)	
	エコツアーリズムにおけるガイドの登用	-	ガイドによる独自企画実施	・鈴鹿10座エコツアーリズムガイドによる企画事業の実施(11回)	-	-	-	

具体的取組	令和3年度 数値目標 (定性目標):A	実施計画達成状況			数値目標達成状況		5年間の評価
		令和3年度・計画:B	令和3年度・実績:C		達成率:C/B	累積(R3):D	
②安全対策及び施設の維持管理等の推進及び実施体制の構築	—	標識、柵、ロープ等の設置	・登山道整備 天狗堂、竜ヶ岳、御池岳 ・東近江市山岳遭難対策協議会が救助訓練を実施し、日本コバのレスキューポイントや危険箇所を確認	—	—	—	【実績】 ・危険箇所への標識、ロープの設置、登山道整備などを実施 ・東近江市山岳遭難対策協議会と連携し、レスキューポイントや危険箇所の確認 ・鈴鹿10座ビジターセンターにおいて安全啓発を実施 ・鈴鹿10座ビジターセンターにおいて簡易登山届(スマホ登山アプリ)設置 ・ガイド組織や市職員による施設の巡視や維持管理の実施
登山技術や装備、救急対応、登山カードの提出などの普及啓発	(安全対策啓発ツールの整備)	(1)普及啓発の実施 (2)道の駅における情報コーナーの充実	(1)普及啓発の実施 ・鈴鹿10座ビジターセンター スマホの登山アプリで簡易登山届が提出できる二次元コードを窓口に設置 ・はじめての山登り講座を実施 現地にて登山技術や装備などを講義 ・東近江市山岳遭難対策協議会が「山の日」に登山届の提出や安全登山を啓発 (2)道の駅における情報コーナーの充実 鈴鹿10座ビジターセンターにて、鈴鹿10座の魅力発信する写真を展示	—	(1)普及啓発 ・鈴鹿10座コースガイド 安全な登山について掲載 ・鈴鹿10座ビジターセンター 安全啓発及びパネルの展示 スマホアプリで簡易登山届が提出できる二次元コードを窓口に設置 ・はじめての山登り講座を実施 登山技術や装備などを講義 ・東近江市山岳遭難対策協議会と連携し安全啓発 (2)鈴鹿10座ビジターセンターにおいて登山情報を提供 ・来館者説明用に独自の説明用ガイドマップを作製 ・鈴鹿10座の魅力発信する写真を展示	—	【評価】 ◎鈴鹿10座における危険箇所については重点的に整備を行い、標識の設置などを進めてきた。また、レスキューポイントの確認を東近江市山岳遭難対策協議会が毎年行っており、必要に応じてレスキューポイントを設置や見直しを行っている。登山者が増加し、鈴鹿10座ビジターセンター窓口において危険箇所の情報収集に努めているが、情報の全てを市や相談員、東近江市山岳遭難対策協議会と情報共有ができていないため、情報交換できる場を設ける必要がある。 ◎鈴鹿10座ビジターセンターにおいては、引き続き危険箇所や登山届の提出について安全啓発を行う必要がある。 ◎スマホの登山アプリでの簡易登山届は簡易的なものではあるが、容易に提出できることから、登山届の提出の必要性を認識していない登山者や登山初心者などに対して普及啓発を図る必要がある。 ◎登山届の提出や安全登山について、東近江市山岳遭難対策協議会と連携し、あらゆる機会を通じて啓発を行う必要がある。 ◎はじめての山登り講座などの研修会を開催することにより、引き続き登山者の登山技術の習得や読図の必要性など啓発する必要がある。 ◎鈴鹿10座に関連する登山道や施設は、今後も増えていくことからガイドクラブだけでなく、関係する自治会や団体、ボランティアなどにも協力が得られる仕組みづくりが必要である。 ◎地元と連携し駐車場やトイレなどの管理を行い、鈴鹿10座への関心を高め継続的に維持管理できるよう努める必要がある。
登山カードポストの設置、登山カードの回収方法・活用法の検討	—	登山カードポストの設置	—	—	—	—	主な登山口には登山ポスト設置
施設の日常的な点検やパトロールの実施	—	点検・パトロールの実施	・登山道巡視と登山ポストの確認 ・東近江市山岳遭難対策協議会による救助訓練、レスキューポイントの確認 ・市職員による駐車場、トイレ及び登山口の確認	—	—	—	—
施設の維持管理の実施	—	施設の維持管理の実施	・登山道の巡視により維持管理を実施 ・登山道における危険倒木の処理 ・地域団体による委託し駐車場・トイレの維持管理を実施	—	—	—	—
安全予防対策・緊急時対応の体制構築	—	安全予防対策・緊急時対応の実施	・東近江市山岳遭難対策協議会が安全予防対策を実施(鈴鹿10座エコツアーガイドクラブ会員も参加)	—	—	—	—
施設点検・パトロール・維持管理の体制構築	—	施設点検・パトロール・維持管理の実施	・鈴鹿10座エコツアーガイドクラブによる登山道の巡視 ・地域団体に委託し駐車場・トイレの維持管理を実施	—	—	—	—
③関係者の役割分担及び自立した運営体制の構築	関係者の役割分担及び費用負担の明確化	(関係者の役割分担及び費用負担の明確化)	関係機関との協議 駐車場・トイレ整備・県・市担当課及び施設管理課 安全対策:東近江市山岳遭難対策協議会	—	—	—	【評価】 ◎取組を通じた関係団体との協議により、徐々に団体の役割の明確化につながってきているが、各団体の体制等にも課題があることから、引き続き連携を図る必要がある。 ◎関係者による役割分担や費用負担については協議が進められてきているため、今後も連携協力しながら鈴鹿10座の推進を図る。そのため、鈴鹿10座を維持管理していくための収益確保について引き続き検討する必要がある。 ◎ツアー数も増え参加者も増加傾向であり、収益性の向上につながっていることから、引き続き運営体制の強化に向けて支援を行う必要がある。また、一部収益を登山道整備や保全活動に充てられているなどの波及効果もでてきている。 ◎事業者に対して登山道整備や鈴鹿10座を応援するなどの環境保全協力金についてヒアリングを行ったところ、協力的な意見が多数であったため、環境保全協力金の徴収について検討する必要がある。
収益確保の仕組みづくり、自立した運営体制構築	(収益確保の仕組み、自立した運営体制構築)	・ガイドクラブ等のエコツアーの実施	・鈴鹿10座エコツアーガイドクラブ等の団体が収益性を確保したエコツアーを実施(3団体)	—	—	—	—
利用(受益)と負担の仕組みの検討	(利用と負担の仕組み構築)	・環境保全協力金について検討	・ツアー等における環境保全協力金の徴収を検討 ・環境保全協力金について事業者ヒアリングを実施	—	—	—	—
(5)地域住民や多様な主体の参画および隣接自治体等との連携等	整備・活用・仕組みづくり等の過程における地域住民・多様な主体の積極的な参画、情報共有や合意形成の場づくり	(情報共有や合意形成の場の活用)	・各種取組に地域住民・多様な主体の積極的な参画 ・情報共有や意思形成の場の活用 永源寺東部自治会長会議 100年の森づくり地域ワークショップ	—	毎年、地域住民への情報共有の場で説明を行っている。	—	【実績】 ・鈴鹿10座周辺自治会の各自治会長にヒアリング実施 ・地元自治会や隣接自治会との連携が図られている。 ・地域住民へ鈴鹿10座に関する情報共有する場を毎年設けている。 【評価】 ◎各自治会長に鈴鹿10座のヒアリングを行い良かった箇所や課題の把握に努めた。引き続き、各自治会や多様な主体を巻き込み情報共有及び連携を図る必要がある。 ◎滋賀県とは、指定管理鳥獣等捕獲事業や生態系維持回復事業において連携を図っているが、三重県、いなべ市、菟野町や甲賀市などとの連携がとれていないため、鈴鹿国定公園協会など既存組織での協力を求めるなど広域的な取組の展開をはかる必要がある。
近隣自治体等との連携促進	—	近隣自治体等との協議・調整、連携策の実施	SEA TO SUMMITや竜ヶ岳指定管理鳥獣等捕獲事業の会議で滋賀県、三重県及びいなべ市と情報共有	—	—	—	—

具体的取組	令和3年度 数値目標 (定性目標):A	実施計画達成状況			数値目標達成状況		5年間の評価	
		令和3年度・計画:B	令和3年度・実績:C	達成率:C/B	累積(R3):D	進捗率:D/A		
(6) 自然・歴史・文化、物産など地域資源の活用	自然・歴史・文化、物産などに関する情報の発掘・収集および活用	(自然・歴史・文化、物産などに関する情報ツールの整備)	・広報・啓発ツールへの活用 ・道の駅における展示・販売 ・100年後に残したい鈴鹿の森選定(7箇所) ・100年後に残したい鈴鹿の森公表	・100年の森づくりビジョン地域ワークショップで自然、歴史文化等の情報収集 ・鈴鹿10座エコツアーガイドスキルアップ講習で地域資源の掘り起し ・100年後に残したい鈴鹿の森追加選定(3箇所) ・100年後に残したい鈴鹿の森(20箇所)選定	-	-	-	【実績】 ・100年後に残したい鈴鹿の森(20箇所)公表予定 ・鈴鹿の森の学び塾などを開催し、鈴鹿山脈の自然や歴史文化などの掘り起こしの実施 ・「鈴鹿10座登山ガイド資料」:4プログラム 御池岳・T字尾根コース 御池岳・ミノガ峠コース 銚子ヶ口、天狗堂 ・推奨コースのイベントを実施 11プログラム(御池岳、藤原岳、竜ヶ岳、釈迦ヶ岳、雨乞岳、イブネ、銚子ヶ口、日本コバ) ・100年後に残したい鈴鹿の森を活用したイベントの実施 2プログラム(君ヶ畑のブナ・アカガシ林、愛知崖のユクノキ林)
	「東近江市ならではの」登山やエコツアーのプログラム開発と定着	推奨コースにおけるプログラム開発:10プログラム	プログラムの充実・活用	・推奨コースのイベントを実施 2団体9プログラム(御池岳、藤原岳、竜ヶ岳、釈迦ヶ岳、雨乞岳、イブネ、日本コバ) ・100年後に残したい鈴鹿の森を活用したイベントの実施 1団体1プログラム(愛知崖のユクノキ林)	-	110%	○コース上の動植物、歴史・文化資源等の説明ポイントを記載した「鈴鹿10座登山ガイド資料」を作成:4プログラム 御池岳・T字尾根コース、御池岳・ミノガ峠コース、銚子ヶ口、天狗堂 ○推奨コースのイベントを実施 2団体:11プログラム(御池岳、藤原岳、竜ヶ岳、釈迦ヶ岳、雨乞岳、イブネ、銚子ヶ口、日本コバ) ○100年後に残したい鈴鹿の森を活用したイベントの実施 1団体:2プログラム(君ヶ畑のブナ・アカガシ林、愛知崖のユクノキ林)	【評価】 ◎鈴鹿山脈における資源は多く、文献の整理や専門家からの情報収集など引き続き行う必要がある。 ◎鈴鹿10座を活用したエコツアープログラムは徐々に開発されてきている。今後は、東近江市エコツアー推進協議会の実施予定である認定エコツアーの基準に沿ったツアーが実施されるよう支援する必要がある。
(7) 優れた自然環境を保全しながら持続的に活用するための仕組みの確立	ニホンジカ被害対策による自然植生の保全、治山事業等による森林の復旧等	-	・県事業等との連携・協力 ・ササユリ及びアカモノの保全対策評価	・県事業等との連携・協力 ①鈴鹿生態系維持回復事業(県自然環境保全課)による御池岳獣害防止ネットの保全作業:2回 ②竜ヶ岳指定管理鳥獣等捕獲事業に参画 ・ササユリ及びアカモノの保全対策評価 鈴鹿10エコツアーガイドクラブによる銚子ヶ口のササユリ及びアカモノの保全作業:2回(防護ネット設置作業)	-	-	-	【実績】 ・鈴鹿生態系維持回復事業による御池岳獣害防止ネットの保全作業 ・竜ヶ岳指定管理鳥獣等捕獲事業の検討会議に参画 ・鈴鹿10座エコツアーガイドクラブによる銚子ヶ口ササユリの保全及びアカヤシオの保全、八風峠シロヤシオの保全作業 ・市ホームページにおいて登山マナーについて啓発 ・登ろう!鈴鹿10座(鈴鹿10座コースガイド)で登山マナー啓発 ・鈴鹿10座ビジターセンターで啓発パネルを設置 ・鈴鹿10座エコツアーガイドは「鈴鹿10座エコツアーガイド共通ルール」に同意することを認定条件としている。
	鈴鹿10座の保全・活用におけるローカルルールの検討	(ローカルルールの策定・運用)	・ローカルルールの策定・運用	・市ホームページ及び鈴鹿10座ビジターセンター窓口において登山マナーを啓発	-	(策定・運用はできていない)	【評価】 ◎御池岳や竜ヶ岳におけるにおけるニホンジカ対策は、効果的な対策となるよう引き続き実施者の滋賀県と連携協議し進める必要がある。 ◎銚子ヶ口のアカモノの保全は、踏み荒らし防止ロープを設置したことにより踏み荒らしがなくなり植生回復したため成果が見られた。ササユリの保全では、鈴鹿10座エコツアーガイドクラブが継続して実施しているが、より継続するためには地元の協力を図る必要がある。 ◎市や鈴鹿10座ビジターセンターに鈴鹿国定公園内でテント泊の件についてなど問い合わせが多数あるため、所管の滋賀県と国定公園内での規制の啓発などについて、継続して協議する必要がある。 ◎ローカルルールは、様々なタイプがあることから、課題と必要性を整理し、研究していく必要がある。	
(8) 鈴鹿10座活用の中核的な拠点(ビジターセンター)の実現に向けた「道の駅 奥永源寺溪流の里」の活用	ビジターセンターの整備・運営方針の決定	(ビジターセンターの開設・運営)	・ビジターセンターの機能と運営方針の検討 ・(仮称)鈴鹿の森ビジターセンター実現に向けた検討	・(仮称)鈴鹿の森ビジターセンターの実現に向けた協議	-	・鈴鹿10座ビジターセンターの機能として、登山、エコツアー、環境学習等の拠点として7つの機能を備えたものとする構想に基づき2階の音楽室を鈴鹿10座ビジターセンターとして開設 ・令和2年4月から鈴鹿10座ビジターセンターを1階に開設	【実績】 ・鈴鹿10座ビジターセンターを1階に開設・運営 ・鈴鹿10座ビジターセンター電話相談窓口を開設	
	ビジターセンターの段階的な整備	(ビジターセンターの開設・運営)	・ビジターセンターの機能充実 ・市職員相談業務(週5日) ・相談業務(通年)	・鈴鹿10座ビジターセンターの通年開設 ・鈴鹿10座ビジターセンター電話相談窓口を開設	-	・鈴鹿10座ビジターセンターの機能として、登山、エコツアー、環境学習等の拠点として7つの機能を備えたものとする構想に基づき2階の音楽室を鈴鹿10座ビジターセンターとして開設 ・令和2年4月から鈴鹿10座ビジターセンターを1階に開設 ・鈴鹿10座ビジターセンター電話相談窓口を開設	【評価】 ◎令和2年4月から鈴鹿10座ビジターセンターを2階から1階に移設したことにより、来館者数が増え登山者からの相談を多く受けることができた。また、登山の関係だけでなく観光や釣りなど多様な相談を受けるようになった。今後は、窓口で対応する者のスキルアップや増員なども含め、ビジターセンターの拡充を検討する必要がある。 ◎令和3年5月から鈴鹿10座ビジターセンターに電話相談窓口(携帯電話)を開設し、登山者からの相談に広く対応できるようになった。今後は、スマホの登山アプリの使い方など本携帯電話を用いた啓発など活用を進める必要がある。	
5(3)プランの進行管理と評価	プランの策定・実行	-	プランの実行	プランの実行・改訂	-	-	-	【実績】 ・本プラン改訂 ・本プランの進捗状況をHPに公表
	数値目標の達成状況の評価・公表	-	-	HPにて評価を公表	-	-	-	
	全体計画の進捗状況の評価・公表	-	-	HPにて評価を公表	-	-	-	